江戸以来の歴史と伝統をひもとく

近江商人解体新書

近江八幡・東近江（五個荘）
日野・豊郷

本店は近江（現・滋賀県）に置き、全国を飛び回り商いを行った近江商人。その主要な出身地が近江八幡、東近江（五個荘）、日野、豊郷だ。偉人や名言、お宝や名建築をヒントに、風情ある町並み散歩に出かけてみよう。

其ノ一

キーワードで知る〝近江スタイル〟

近江商人が残した金言集

ひとくちに「商人」といっても、そのスタイルは地域によって千差万別。
時代を越えて受け継がれてきた数々の名言に、
全国を股にかけた商売を成功させるための秘訣が表れている。

SUGOI 1 SDGsを先どり!? 「三方よし」で 万事快調

「売り手よし、買い手よし、世間よし」を表す、近江商人の商売に対する考え方を象徴する言葉。売り手が自身の利益だけに固執せず、購入者の満足も考えて、ひいては社会貢献になるように商売をすること。

世界各地で2010年代後半から盛んに叫ばれるようになった「SDGs」を、数百年前から実践してきた証拠ともいえる。



SUGOI 2 現在でいう公共事業 苦しい時こそ 「お助け普請（ぶしん）」

近江商人が他所でも滞りなく商売できていたのは、地元が活性化していたからこそ。そのために「お互い様」という考え方が常にあった。凶作や不況など苦しい時ほど、地元の中小企業が元気になって地域が活性化されるように、自宅や神社仏閣の改修など、公共事業的な仕事を彼らに発注していた。



SUGOI 3 「しまつしてきばる」がお金持ちへの近道

「しまつ」は節約、「きばる」は働くの意。つまり「節約して働く」ということだが、単に「ケチケチして儲けよ」という意味ではない。お金は、社会のために使う時は使い、飲んだり遊んだりする時は節度を持ってということ。日野商人の中井源左衛門は「金持ちになるのは決して運ではない」と記している。

オマケ情報 山形県のご当地グルメ「すっぽこ」。いわゆるあんかけうどんで、江戸時代、行商に来た近江商人が

SUGOI 4 「のこぎり商い」で利益も行ったり来たり

近江の特産品を全国各地へ売りに行き、その売上で現地で仕入れた商品を、また別の土地で売る。商品をのこぎりで木を切る時のように往復させながら商売していることから、この言葉が生まれた。国内でも別の土地へ行くのが、現代にたとえるなら外国へ行くほどハードルが高かった時代。各国の名産品を扱えるメリットは大きかった。



SUGOI 5 商売には厳しさも必要 不適格な主人は「押込隠居（おしこめいんきょ）」に

江戸時代、近江商人の家では親族や後見人たちが集まって取締役会のようなものを開いたうえで、主人として不適格な人物は隠居させていた。そのこと自体、あるいは隠居させられた人を「押込隠居」と呼ぶ。裏には、商売の繁栄は一代で築かれるものではなく、先祖の苦労の賜物によって続いてきた家業を主人が守って次の代へつなぐように努めるべき、という考え方がある。

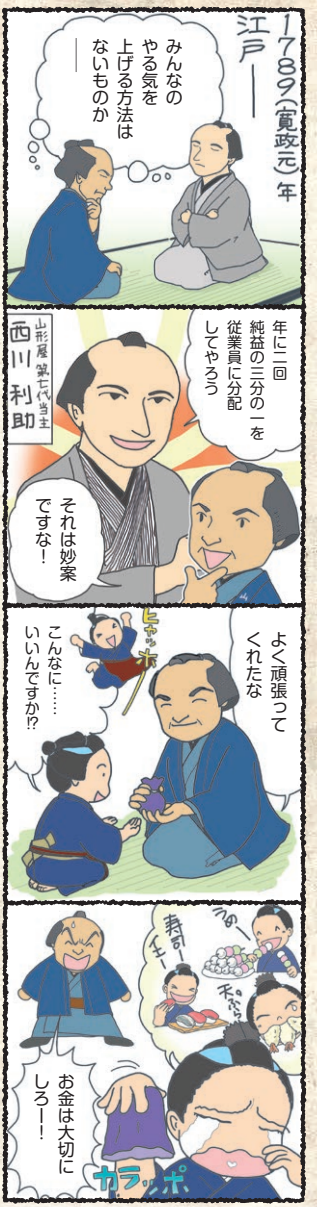
SUGOI 6 人知れず人のために「陰徳善事（いんとくぜんじ）」が重要

売名行為ではなく、かつ、人知れず人の為になるような行いをするのが近江商人らしさ。具体的には、神社仏閣への寄進、橋の架け替え工事、学校建築への寄付などがある。大規模な植林工事をした五個荘商人の塚本定次・正之兄弟は「治水・治山の父」と呼ばれ、商人としても成功をおさめた。



地元の味を伝えたものだとか。山形には同じく近江ルーツの「おみ漬け」もある。

番頭さんと丁稚くん
日本初のボーナス



1789年、「寝具の西川」として知られる西川家の七代目利助が「三ツ割銀制度」という名で日本初のボーナスを制定した。今では当たり前の制度だが、店の売上は主人の私有財産ではないと考える、近江商人ならではの発想だ。

其ノ二

各時代のキラ星のごときスターたち

近江商人ベストイレブン

海の向こうで一旗揚げた冒険精神あふれる男たちもいれば、
夫の再起を支えた糟糠(そうこう)の妻、老いてから教育に貢献した女性校長もいた。
時代も地域も超え、エピソードに事欠かぬ傑物たちがここに集結。

450年以上続く老舗の祖を築く

❶ 西川仁右衛門

［1549-1644］（近江八幡）

「寝具の西川」で知られる山形屋西川家の初代。彼が18歳で行商を始めたのが、450年以上の歴史を持つ西川の原点。

西川といえば江戸時代、萌黄色(もえぎいろ)の蚊帳を発明して一世を風靡したことで有名だが、初代は元々、豊臣秀次による城と城下町の建設に際し、工務監督として近江八幡へやって来た。本店を構え、本格的に蚊帳と畳を売り始めた後、江戸に進出。当時はまだ開発途上だった日本橋にも店を構えた、先を見通す力を持った人物だった。

若干ハタチで海を渡った〝漢〟

❷ 西村太郎右衛門

［1603-1651］（近江八幡）

商家の次男坊として誕生し、20歳で御朱印船に乗って長崎から安南（現・ベトナム）へと旅立った。異国で25年間を過ごした後、日本へ帰って来たところ、鎖国で入れず。そのまま安南で生涯を終えることとなった。長崎の港で、絵師に故郷への想いを託して描かせた巨大な絵馬「安南渡海船額」を日牟禮八幡宮へ奉納(現存)。



日野売薬の先駆け的存在

❸ 正野玄三［1659-1733］（日野）

18歳で行商を始め、当初は京都、大坂で仕入れた木綿や古着、中古の装飾品などを信州・越後で売り、現地では煙草などを仕入れて他の土地で売るなど、「のこぎり商い」を行っていた。

30代より医療製薬の技術を学ぶようになり、40代で売薬業を開始。「神農感應丸」は万病に利くとして瞬く間に普及。以後、漆器に加えて薬が日野商人の主力商品となった。現在も「正野萬病感應丸」として販売されている。



中興の祖にして革命児

❹ 西川利助

［1746-1825］（近江八幡）

山形屋西川家の七代。火事により度々被災したことから、現在の積立金にあたる「除銀(よけぎん)」や、純益の一部を奉公人にも分配する「三ツ割銀」など、革新的な制度を次々と導入した。



オマケ情報 行商スタイルで飛び回っていただけに、全国各地に「近江」がある。金沢の台所「近江町市場」や、

「たるまさん精神」で成功を掴む

❺ 山中正吉 [1809-1896]（日野）

駿河（現・静岡県東部）の富士宮で酒造業を営み、一度は失敗するも再起し、商いを繁盛させることに成功した人物。本宅の旧山中正吉邸（近江日野商人ふるさと館）は、日野町の西大路に今も残る。四代目妻・園は、邸宅内にだるま部屋を設け、1000点ものだるまを飾っていた。「こころをたるまさんように」の意が込められていたとか。



晩年を女子教育に捧げた

❻ 塚本さと [1843-1928]（五個荘）

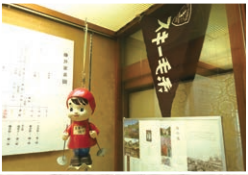


「紅屋」の屋号をもつ初代・塚本定右衛門の五女として生まれ、21歳の時に店の奉公人であった源三を婿に迎えて、近江商人の妻となった。寺子屋での勉強のほかに、家庭で「裁縫、生け花、茶道」を女子の嗜みとして学んだが、明治に入って新しい世の中を迎える中で女子教育の大切さを痛感。夫と死別後、1919（大正8）年、77歳で私費を投じ淡海女子実務学校を創立し校長に就任。「時代に適した商家の女子を養成する」ことを目標としていた。

財を成し豪華客船をまるごと買った

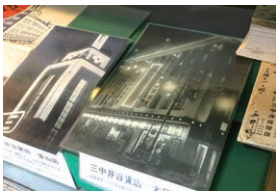
❼ 藤井彦四郎 [1876-1956]（五個荘）

フランスで人工絹糸（レーヨン）が発明されたことを知り、すぐに見本品を輸入し「人造絹糸」と名づけ宣伝。その後、「スキー毛糸」のブランド名で知られる毛糸販売で莫大な財を成した。イギリスで気に入った豪華客船を、船内の備品まで含めてまるまる買った豪傑。



「幻の百貨店王」四兄弟

❽ 中江勝治郎 [1872-1944]（五個荘）
❾ 西村久次郎 [1876-1945]（五個荘）
❿ 中江富十郎 [1878-1938]（五個荘）
⓫ 中江準五郎 [1886-1937]（五個荘）





昭和初期、朝鮮半島や中国大陸で「三中井（みなかい）百貨店」を築いた四兄弟（久次郎は西村家へ養子に入ったため苗字が異なる）。屋上でビアガーデンを開くなどのアイデアも大当たりし、一時期は約20店舗にもなり中江四兄弟は「百貨店王」と称されるほどに。地元の人々を従業員として採用し、雇用機会を増やして地域にも貢献していた。

しかし、日本の敗戦とともに店も財産もすべて中国で没収されてしまい、百貨店は消滅したまま復活することはなかった。

現在は、勝治郎の養子筋の子孫が経営する、「三中井」という名の洋菓子店が彦根市に一店舗だけ残っている。また、出身地である五個荘では、末っ子である準五郎の本宅が一般公開されている。

坂本龍馬が暗殺された京都の「近江屋」など。遠く北海道・小樽にも、鰊御殿「旧近江家番屋」が残っている。

其ノ三

山を越え海を越えやがて世界へ

豊郷商人ベストファイブ

日本を代表する商社「伊藤忠」「丸紅」を設立する伊藤家を筆頭に、
日本全国、あるいは世界を股にかけて活躍する、
スケールの大きな人物たちが、この小さな町から次々と生まれた。

北の大地に乗り込み一旗揚げる

❶ 藤野喜兵衛［1770～1823］



近江商人のなかでも、豊郷はとりわけスケールの大きな人物を数多く輩出している。

その元祖ともいえる喜兵衛は、江戸末期の1781（天明元）年に生まれ、12歳で蝦夷地（北海道）へと渡る。1800（寛政12）年より「又十」の屋号で東蝦夷地の産物の輸出売買を行った。

1821（文政4）年には所有する船「常昌丸」が松前藩の御用船となり、1822（文政5）年には苗字帯刀を許されるなど、藩主にも重用されるようになった。

漁場の開発と廻船業で大いに商売を広げ、やがて北は宗谷・礼文・利尻、東は網走・斜里・国後・根室など、蝦夷地全域の漁場を請け負うほどの豪商となった。廻船業では、所有する数多くの北前船を駆使し、蝦夷地のみならず本州各地の産物を取り扱うようになった。

後に藤野缶詰所を起し、サケやマスなど海産物の加工も行うようになった。

「正直」「薄利」「辛抱」「勉強」が座右の銘

❷ 初代・薩摩治兵衛［1830～1909］





貧しい農家の生まれで、10歳で江戸へ。謹厳実直で信頼され、35歳で番頭となる。

独立開業は1867（慶応3）年、38歳の時。当時は幕末の混乱期。江戸も戦禍に見舞われ、襲撃を恐れ多くの商店が店を閉める中、商売を続けていた。物価高騰でも薄利で商売を続ける、イギリス産の良質な木綿を扱い繁盛。翌年には開業時の借金を完済した。

その後も業績を伸ばし、明治中期には「木綿王」の異名を持つほどになる。一方で、借金の証文を掛け軸にして戒めとしていた。一方で、飢饉の際に薩摩救助米（写真左）を送り人々を救ったり、豊郷尋常小学校の新築や学校前の道路拡張の費用を寄附するなど、地元への貢献も惜しまなかった。

オマケ情報 初代・薩摩治兵衛の孫が「バロン薩摩」こと薩摩治郎八。パリ社交界きってのプレイボーイは、30



すき焼きパーティは社内の潤滑油に!?

❸ 初代・伊藤忠兵衛

［1842 ~ 1903］

11歳で兄に連れられ行商に出て以来、商いの道へ。1859（安政6）年、長崎・出島に足を運ぶ。1861（文久元）年には九州北部の近江商人組合「栄九講」の代表に若くして推薦される。いち早く貿易に目をつけ、1890（明治23）年には貿易商社の株主となり、サンフランシスコに支店を持つ。

1872（明治5）年、大阪に呉服商「紅忠（べんちゅう）」開店。本家・店・店員の「利益三分主義」、在所・仕事・女房の「三惚れ主義」、洋式簿記導入など革新的な取り組みを行う。毎月「一」「六」のつく日は全店員すき焼きパーティを行うなど、福利厚生にも積極的だった。

若者からの提案でも良いものは即実行。「商売で嘘をつくな」と常々指導していた。



「しまつしてきばる」良妻にして近江商人の鏡

❹ 伊藤八重

［1849 ~ 1952］

豊郷出身で、17歳で初代・伊藤忠兵衛と結婚。留守宅を守りながら、地元産の麻布の仕入れ・発送を切り盛りしたり、見習い店員を住み込ませて社員教育を施すなど、息子の二代目曰く「ケーパブル（＝有能）な人」だったという。過度の贅沢を好まず、割り箸（伊藤忠兵衛記念館土蔵に展示あり）も捨てることなく再利用するほど、物を大切に扱った。



〝豊郷のシンボル〟の生みの親

❺ 古川鉄治郎

［1878 ~ 1940］

13歳で叔父の伊藤本店に入り丁稚奉公からスタートし、後に丸紅商店の専務にまで出世した男は、功成り名遂げた後、「国運の進展は普通教育の振興にある」と考えた。その実践として、私財の三分の二もの巨費40万円（現在の数十億円）を投じたのが、母校・豊郷小学校の校舎新築だった。

白亜の殿堂が落成したのは1937（昭和12）年5月30日のこと。図書館、体育館、講堂、プールなどを備え、暖房や実験器具など設備も最先端のものを揃えた。



住職が夜通しフェス主催!?

根誉上人

1568（永禄11）年、織田信長と佐々木六角氏の争乱の最中に焼失した千樹寺。18年後、再建のお祝いで、般若心経を滑稽な節回しと踊りで拾うしたのが当時の住職・根誉上人。場は大いに盛り上がり、朝まで皆で踊ったとか。これがのちに江州音頭（ごうしゅうおんど）となる「枝村音頭」。さぞかし陽気な住職だったのだろう。



年で600億円もの財産を使い尽くしたという。画家・藤田嗣治のパトロンとしても知られる。

其ノ四

掘り出しモノを探しに行こう

商家のお宝拝見します

名家の旧宅や神社、資料館、時にはまちかどにも――。
いたるところに、近江商人ゆかりの「お宝」が残っている。
いずれ劣らぬ逸品揃い、とくとご覧あれ。

端切れも無駄にしない精神

OTAKARA ❶

布細工

（近江八幡／旧伴家住宅）

旧伴家住宅のとある一室、引き出しの中には数々の小物が穏れている。近江八幡の伝統工芸でもある着物。その端切れを使った小物で、箱などの実用的なものから、タコやエビなど海産物の小袋（！）まで。近江商人の妻たちの暮らしが垣間見える。





徳川家と朝鮮政府の友好の証

OTAKARA ❷

朝鮮通信使瓦人形

（近江八幡／旧伴家住宅）

江戸時代、朝鮮から日本に送られていた外交使節団・朝鮮通信使。近江八幡はその中継地だった。その旗手がモデルで、地場産業の瓦製造の技術を駆使し、立体的で服のシワやふくらみまで精巧な造り。よく見ると赤と金で彩色されていた面影も。



海外からやって来た最新器具

OTAKARA ❸

ガルバニ電気治療器

（日野／旧山中兵右衛門邸）

江戸時代末期にオランダ人によってもたらされ、日野商人の本宅で保管されていた医療器具。イタリア人のガルバニが発明した電池を使っている。ほかの電気治療器よりもコンパクトで精巧にできているのが特徴。電圧は最大数百ボルト！



豪華客船の船内を再現！

OTAKARA ❹

ポーカーテーブル

（五個荘／藤井彦四郎邸）

一目惚れしたヨーロッパの客船を、なんと一隻丸ごと買い取ってしまったというからビックリ。藤井彦四郎邸の一角に立つ迎賓用の洋館には、船内にあった調度品がズラリ。ポーカーテーブルは、貝殻をモチーフにした装飾の灰皿つき。





オマケ情報 五個荘の外村繁邸の一角には、「外村家に伝わるお菓子の作り方」が貼ってある。よく見ると、なぜか

豪華絢爛な装飾が町の自慢

OTAKARA 5 日野祭曳山（日野／本町曳山）



日野の町を歩いていると目につく背の高い蔵。日野祭で馬見岡綿向神社まで巡行する曳山（山車の一種）が収納されている。写真の本町曳山は、1806（文化3）年の修復当時の姿を今に伝えている。金箔がふんだんに用いられ、凝りに凝った彫刻も素晴らしい。



食べられるけど食べないでね

OTAKARA 6 左義長（近江八幡／旧伴家住宅）



織田信長が自らも参加したと伝わる左義長祭は、例年3月に開催。実際に左義長が見られるのはお祭りの2日間だけだが、展示用の原寸大のものが旧伴家住宅にある。干支の動物をメインにした飾り部分は、マメやスルメ、昆布など、食材でできているから驚きだ。

ガラガラくじの祖先がここに！

OTAKARA 7 富くじ箱（五個荘／藤井彦四郎邸）



お祭りなどで景品を抽選する時に使うガラガラくじの明治バージョン。上に置いてある四角い小さなコマを入れて、くじにしていた。現在だと残念賞でたわしなどが当たるが、当時はどんなものが景品になっていたのだろう。

ダイヤルはイロハニホヘト

OTAKARA 8 金庫（日野／旧山中正吉邸）



旧山中正吉邸、江戸時代末期に建てられた主屋。その一角にある事務を行う机場（ちょうば）には、大正時代の金庫が備え付けられている。ダイヤルが数字ではなく「イロハニホヘト」になっているところが、なんともレトロ可愛い。

番頭さんと丁稚くん
日本最古のワイン発見！



旧山中兵右衛門邸（近江日野商人館）で、蔵の床下から発見された最古の国産ワイン。1905（明治38）年～1913（大正2）年頃、茨城県牛久産。静岡県の山中家の店舗で販売していたもののようだ。

其ノ五

旦那さん気分で過ごしてみる？

商人屋敷の名建築&名庭園

財を成せば、お宅も立派になるもの。そして、そのたたずまいはそれぞれに個性的。
なかには数百年を超す建物もあり、文化財としても貴重なものばかり。
こだわりぬいた珠玉の職人芸が随所に。これも近江商人が育んだ文化のひとつだ。

和室も洋間も絢爛豪華

SPOT 1 西川甚五郎邸（近江八幡）

「寝具の西川」で知られる西川家の本宅。約700坪の敷地に江戸・明治・大正各時代の建物が遺る。外観は横に長い和風建築で内部も和室が中心だが、二階にはモダンな洋間がある。面白いのは、屋根裏のからくりで可動式の電灯。コードを引っ張ると下に降りてきて、ちょうどよい高さに調節できる。蔵の入口にある電話ボックスに似た出っ張りは、十二代目の趣味だった写真の現像室。●近江八幡市大杉町17／JR近江八幡駅からバスで7分、下車すぐ／邸内見学はイベント時のみ（要予約）※史料館は10～17時／火曜休











重要文化財指定の三階蔵は必見

SPOT 2 旧西川家住宅（近江八幡）

［旧西川利右衛門宅］

一棟の建物内が店部分と居宅部分に分かれた典型的な近江商家の造り。特徴的なのは、大きな座敷玄関。ここの引き戸を開けて、大荷物の商人たちを迎え入れていた。三階建ての蔵は、江戸時代初期の1681～1684年（天和年間）に建てられたもの。後に、幕府により2階以上の建物は贅沢との理由で禁止されたため貴重（外観のみ見学可）。●近江八幡市新町2／JR近江八幡駅からバスで6分、下車すぐ／9時～16時30分／月曜休（祝日の場合は翌日）／有料



オマケ情報 藤井彦四郎邸の門をくぐると、庭に置かれた信楽焼の羊が出迎えてくれる。これはスキー毛糸で財

SPOT 3

銘木の良さを活かした熟練技
旧山中兵右衛門邸（日野）
［近江日野商人館］

1936（昭和11）年、不景気の時に「お助け普請」の精神で、地元の職人たちに発注し建造。自然の紋様を活かした床の間脇の書院、節のない一木にシンプルな細工を施した柱など、センスの良さがうかがえる。窓の外には、瓦屋根を借景にした枯山水庭園。老松がひときわ映える。●日野町大窪1101／近江鉄道日野駅からバスで7分、徒歩3分／9～16時／月・火曜休（祝日の場合は水曜）／有料



SPOT 4

江戸から昭和までをぐるり
旧山中正吉邸（日野）
［近江日野商人ふるさと館］

江戸末期に建てられて以来、増築に増築を重ねた広大な邸内は15部屋。ぐるり一周すると、江戸、明治、大正、昭和と、各時代の部屋を見学可能。いずれも大正末期から昭和初期に建築された、モダンな洋間とステンドグラスが美しい浴室が特に目を引く。和室の釘隠もお見逃しなく。コウモリの形で、ひとつひとつ手作りのため表情や形が異なっている。●日野町西大路1264／近江鉄道日野駅からバスで10分、徒歩2分／9～16時／月・火曜休（祝日の場合は翌日）／有料



SPOT 5

生活水の使い方に工夫あり
外村繁邸（五個荘）

築120年超の商人屋敷は、作家としても名を成した外村繁の生家。門をくぐると「川戸」があり、ここで野菜などを洗っていた生活が想像できる。土間の奥には自家水道。井戸の横に設置した箱に水を汲み上げると、配管を伝って五右衛門風呂に水が貯まる仕組み。庭園も見事で、特に二階の座敷からは全景が見渡せて絶景。●東近江市五個荘金堂町631／JR能登川駅からバスで10分、徒歩5分／10～16時30分／月曜（祝日の場合は翌日）・祝翌日休／有料





SPOT 6

商人屋敷で随一のスケール！
藤井彦四郎邸（五個荘）

スキー毛糸で財を成した豪商の邸宅は、なんと2470坪。庭園だけで800坪もあるというからビックリ。琵琶湖の形になっている池の周りをぐるり一周できる地泉回遊式庭園になっている。歴代総理や渋沢栄一の書、皇族用の部屋にある蒔絵の火鉢など、邸内にはお宝もそこかしこに。●東近江市五個荘宮荘町681／JR能登川駅からバスで6分、徒歩15分／10時～16時30分／月曜（祝日の場合は翌日）・祝翌日休／有料



を成した藤井彦四郎がお客様に感謝を表すために置かれているという。

其ノ六

城下町に並ぶ名建築の数々

近江八幡さんぽ



左義長祭当日の日牟禮八幡宮前

TWO RABBITS BEER HOUSEのコースター



八幡山のふもとの城下町に本宅を構え、全国へ商いに繰り出した八幡商人。
彼らが活躍を始めた頃の風景が、今でも保護され残っている。
「青い目の近江商人」ヴォーリズの手掛けた洋風建築も見逃せない。

サステナブルなナッツ屋さん

SPOT 1 Going Nuts!





元酒蔵の建物内に構える店内には、カリフォルニアを中心に世界各地から仕入れた数十種ものナッツがズラリ。量り売りだと割引される販売方法は環境にもやさしく、まさに「三方よし」。●近江八幡市仲屋町中21／JR近江八幡駅からバスで8分、徒歩3分／10～17時（日曜は12～17時）／水曜休

一期一会のビールに会える

SPOT 2 TWO RABBITS BEER HOUSE



日本蔵を改装した広々とした店内で、クラフトビールが楽しめる醸造所直営店。8つのタップは常に種類が入れ替わり、いつ訪れても飽きない。誰もが好みの一杯に出会えるよう、季節限定や樽熟成など多種多様なビールを醸造。一期一会の一杯を楽しんで。●近江八幡市大杉町27-2F／JR近江八幡駅からバスで7分、徒歩2分／12～17時（土・日曜、祝日は～18時）／火曜休（祝日の場合は営業）







オマケ情報 近江八幡の商家の塀から通りの方へと飛び出している「見越しの松」。お得意様用の特別玄関の目印

八幡堀を眺めながら一息

SPOT 3 あまな

「でっち羊羹」で有名な老舗和菓子店「和た与」の系列店。近江牛や湖魚、うなぎなど地元食材の料理が味わえる。●近江八幡市大杉町32／JR近江八幡駅からバスで7分、徒歩2分／10時～17時30分／火曜休（他不定休あり）







ヴォーリズ建築の傑作

SPOT 4 旧八幡郵便局



築100年を超えるヴォーリズ建築。アーチ型の窓など、独特の洋風建築の装飾が美しい。当時を思わせる私書箱が壁面にあったり、屋根瓦に郵便マークが隠れていたり（写真右上）、細かな点も見逃せない。内部は土・日曜を中心に一般公開されていて、喫茶もオープンする。●近江八幡市仲屋町中8／JR近江八幡駅からバスで8分、徒歩3分／見学自由







水上散策も水辺のそぞろ歩きも

SPOT 5 八幡堀

1585（天正13）年に豊臣秀次が八幡山に城を築いた際に開削。琵琶湖とつなぎ、船を城下に寄港させることで、人や物を集め町を活気づけた。船に乗っての観光も可能。まるで時代劇の世界。夜はライトアップも。





SPOT 6 郷土資料館

建物は旧・八幡警察署でヴォーリズ建築。江戸末期の民家を再利用した歴史民俗資料館も併設。かつては、20歳でベトナムに渡った西村太郎右衛門の邸宅があった場所でもある。



SPOT 7 近江八幡教会

1907（明治40）年にヴォーリズによって建てられた教会。十字架を頂く塔が青空に映える。現在の建物は1983（昭和58）年に再建。日曜には礼拝も行われている。

SPOT 8 八幡山

ロープウェイでわずか4分で山頂へ。近江八幡市街ほか、周囲を一望できる絶景が広がる。ハイキングも可能。近江八幡の町を造った豊臣秀次の八幡山城の石垣も残る。



だが、道ゆく人の心まで楽しませてくれる粋なはからいだ。

其ノ七

水路が巡るもの静かな古き町

五個荘さんぽ



弘誓寺前の水路には錦鯉が泳ぐ



なんでもこだわりの genzai。コーヒーはサイフォン式

五個荘商人の発祥は農業の閑散期に行商を始めたのがきっかけ。
水路が縦横に走るのんびりした風景の中に、
名を挙げ財を成した豪商たちの屋敷が点在する。

SPOT 1 路地裏のギャラリーカフェ
genzai

築 200 年の元商家を改装したギャラリーカフェ。入口から正面の土間と左手の部屋がギャラリー兼ショップで、こだわり抜いた商品を展示・提供している。奥には喫茶スペース。モダンな店内は、時間を忘れて一息つくのにぴったり。●東近江市五個荘川並町 732-1／JR 能登川駅からバスで 11 分、徒歩 4 分／11 ～ 18 時／水・木曜休









SPOT 2 鳥居や灯籠を商人が寄進
大城神社（おおしろ）

ひときわ目を引く大きな鳥居は、昭和 10 年代、近江商人からの寄進。境内にさまざまな形の灯籠が立っているのも見どころ。●東近江市五個荘金堂町 66／JR 能登川駅からバスで 9 分、徒歩 7 分／参拝自由





オマケ情報 五個荘の町並みの中には、鯉が泳ぐ水路がそこかしこに。愛知川（えちがわ）の伏流水を水源とする

重厚な本堂は国の重要文化財

SPOT 3

弘誓寺（ぐぜいじ）

五個荘町の古い町並みが続く金堂地区に、ひときわ高くそびえ立っている真宗大谷派の古刹。現在の本堂は1755(宝暦5)年に建てられたもので、国の重要文化財。●東近江市五個荘金堂町615／JR能登川駅からバスで9分、徒歩3分／参拝自由







独特の模様の理由は……

舟板塀

五個荘の商人屋敷ならではの意匠として知られるのが、町のあちこちで目に入る舟板塀。かつて舟に使用していた材木を、屋敷や土蔵の壁や塀に再利用したものだ。ほぼ等間隔に並ぶ釘跡が独特の景観を生んでいる。







SPOT 4

観峰館

書の文化にふれる博物館として、公益財団法人日本習字教育財団が、書道文化の普及を目的に運営する博物館。●東近江市五個荘竜田町136／近江鉄道五箇荘駅から徒歩12分／9時30分～17時／月曜休（祝日の場合は翌日）／有料



SPOT 6

近江商人博物館・中路融人記念館

近江商人の歴史や暮らしぶりを映像やジオラマで紹介。湖国・近江の風景を描き続けた日本画家・中路融人の作品も見られる。●東近江市五個荘竜田町583／JR能登川駅からバスで9分、徒歩8分／9時30分～17時／月曜休（祝日の場合は翌日）／有料

SPOT 5

大和郡山藩陣屋跡

1685(貞享2)年から明治維新まで、大和郡山藩領だった五個荘。かつては金堂村と呼ばれていたため、金堂陣屋と呼ばれていた。代官所が置かれていた場所には、当時からの稲荷社が残っており、赤い鳥居が立つ。





SPOT 7

川中地蔵

勝徳寺前の水路を覗くと、石積の脇に丸みを帯びた立石がある。時間とともに削られて楕円形になっているが、よくよく見るとお地蔵様。花が供えられて大事にされている。

清らかな湧水で、生活用水として各屋敷内に引き込む「川戸」としても利用されてきた。

其ノ八

古民家を改装した店や宿も

日野さんぽ

日野の商人屋敷の象徴といえるのが、板塀の「桟敷窓」。
これは、年に一度の「日野祭」の行列を、座敷から見学するためのもの。
なかには、部分的にベンガラ色で装飾されたものもある。



日野祭の際は、桟敷窓が開けられ緋毛氈で華やかに



猪がキャラクターのHINO BREWINGの地ビール

日野商人の信仰篤き古社

SPOT 1

馬見岡綿向神社（うまみおかわたむき）

春には日野祭で賑わう神社。神様の使いとして猪が祀られている。千両松は、江戸時代に遠方で儲けた日野商人が、売上を松の木の植木鉢に隠して無事に帰って来られたことから奉納したとか。●日野町村井711／近江鉄道日野駅からバスで10分、徒歩2分／参拝自由





古民家カフェ＆ゲストハウス

SPOT 2

綿向山ビレッジ

音楽好きな夫妻が移住し、築120年の古民家を自らリノベーションして完成させたゲストハウス。カフェ営業もしている。好評なのが、大きな信楽焼の湯船。「おじいちゃんが孫ふたりと入れる」ゆったりサイズ。大人二人でものんびりだ。●日野町村井1300／近江鉄道日野駅からバスで8分、徒歩3分／11～15時、18～21時／火・水曜休　※ディナータイム、宿泊は要予約（年中無休）







珈琲自慢の古民家カフェ

SPOT 3

らっこや

築150年以上の古民家を改装したカフェ。世界各地のスペシャリティコーヒーや、日野町産ディンケル小麦を使ったパンケーキを。●日野町大窪674／近江鉄道日野駅からバスで7分、下車すぐ／11～17時／水・木・日曜休（他不定休あり）



オマケ情報 日野の古き町並みの中心に立つ「まちかど感応館」も、かつての商家の建物。現在は観光案内所兼

近江商人屋敷でお蕎麦を

SPOT 4 石挽そば 守貞

明治時代の近江商人屋敷をリノベーションした石挽そばの店。赤い緋毛氈がかけられた桟敷窓が目印。●日野町村井1365／近江鉄道日野駅からバスで9分、下車すぐ／11時～14時30分（土・日曜、祝日は～15時30分）、17～21時／第3月曜休（祝日の場合は翌日）



一度は見ておきたい天井画

SPOT 5 信楽院（しんぎょういん）

戦国武将として著名な蒲生家の菩提寺。本堂にある十八畳もの天井画は必見。元は日野商人だった画家・高田敬輔が描いた、荒れ狂う龍の水墨画だ。どこから見上げても、迫力満点の龍と目が合う。●日野町村井1500／近江鉄道日野駅からバスで9分、下車すぐ／参拝自由







SPOT 6 かぎや菓子舗

1848（嘉永元）年創業の和菓子屋。近江米のもち米をまぶして蒸し上げた、いがまんじゅうが名物。ひとくちサイズの羊羹「ようこ」は、黒糖やブルーベリー（季節限定）など味が12種類もある。●日野町村井1336／近江鉄道日野駅からバスで10分、下車すぐ／8～18時／火曜休（他不定休あり）



SPOT 7 旧野口写真館

1930年代のモダニズム文化を象徴する西洋建築の写真店兼アトリエ。現在は貸スペース「studio582」になっている。2階のバルコニーや窓枠の装飾に注目。





SPOT 8 住井歯科醫院

街角にたたずむ、玄関のアーチが特徴的なヴォーリズ建築。わずかにカーブを描き伸びる松とのコントラストが見事。門柱に表札が残っているが、現在は住宅としてのみ使われている。
※個人宅のため、敷地内への立ち入りはご遠慮下さい



土産店。建物の奥には、包装場を改装したギャラリー「つつむ」も隠れている。

其ノ九

稼ぎは地元の発展のために

豊郷さんぽ



伊藤忠兵衛記念館の玄関を入ってすぐの「店の間」

かつて中山道の間宿（あいのしゅく）だった豊郷からは、明治時代前後に大成功を遂げた商人たちが次々と現れた。彼らが地域に残したモダンな建築が今も残る。

SPOT 1 千樹寺

江州音頭の誕生 その影に商人あり

奈良時代、行基創建と伝わる古刹。戦国時代に焼失するが、1586（天正14）年再建。当時の住職・根誉上人が即興の振り付けで踊り出したのが「江州音頭」のルーツ。現在も毎年8月17日の「観音盆」に江州音頭が踊られる。再建に私財を投じたのは、豊郷の近江商人・又十藤野家。●豊郷町下枝111／近江鉄道豊郷駅から愛のりタクシーで2分、徒歩3分／参拝自由



SPOT 2 きょうかどう

和洋どちらも名物 創業100年の老舗

創業100年の老舗菓子店。元々は和菓子店だったが、現在は洋菓子も製造・販売。和洋折衷のオリジナルスイーツも。皮を甲羅に見立てた亀がモチーフで食べごたえ充分のかめろんパンや、フルーツやナッツを練り込んだパウンドケーキなど、自家製のパンやケーキも種類豊富。地元産フルーツが使用されることもある、季節の旬が味わえるフルーツプリンも（季節により販売ない場合もあり）。●豊郷町吉田1500-5／近江鉄道豊郷駅から徒歩15分／10～18時／月曜休





SPOT 3 玉屋

旧中山道沿いの古き良き食堂

元々は製麺業を営んでいた先代が始めた1952（昭和27）年から続く昔ながらの食堂。うどんや丼ものなど和食がメインだが、実は中細ストレート麺の中華そばも人気。●豊郷町高野瀬505／近江鉄道豊郷駅から徒歩6分／11～14時（売り切れ次第終了）／水曜休（ほか平日休1日あり）





※「すまいるタウンバス」は豊郷町民のみ。「愛のりタクシー」は誰でも利用可

オマケ情報 豊郷町内を走るバス「愛のりタクシー」は、1時間前までに要予約。豊郷駅のほか、東海道本線の南



SPOT 4 世界にはばたく総合商社の原点 伊藤忠兵衛記念館

1880（明治 13）年築、初代・伊藤忠兵衛の旧宅。カラー木版画の引札（チラシ）や明治時代の実際に使用された帳簿類、蓄音機やステッキなど二代目の愛用品も展示。納屋に残る大量の食器類は、年に一度、全従業員と親を招いていた頃のもの。●豊郷町八目 128-1 ／近江鉄道豊郷駅から徒歩 5 分／ 10 ～ 16 時／月曜休／入館無料



SPOT 5 豊郷商人のスターが集結 先人を偲ぶ館

江戸時代以降、豊郷の発展に貢献した偉人達のさまざまな資料やパネルを展示。農村の水不足解消に貢献した人物など商人以外についても紹介している。●豊郷町四十九院 815 ／近江鉄道豊郷駅から愛のりタクシーで 4 分、徒歩 3 分／ 10 ～ 16 時／月・水・金・日曜休／入館無料





SPOT 7 幅広い精米歩合で好みの味が見つかる 岡村本家

1854（安政元）年創業。酒米は全て近江米。看板銘柄の「金亀（きんかめ）」は、彦根城の別名「金亀（こんき）」が由来。かつては城下に居を構えていた武士だったが、藩主・井伊家より命を受け、良水と良米の豊郷の地に移住し、酒造りを始めた。木槽袋絞りの優しい味わいで、精米歩合は 20 ～ 100％まで 9 種。数字が低いほどすっきり。直売所あり、蔵見学も可能。●豊郷町吉田 100 ／近江鉄道豊郷駅から愛のりタクシーで 5 分、下車すぐ／ 9 ～ 17 時／不定休







SPOT 6 名建築が今に伝える近江の〝近代の夜明け〟 薩摩治兵衛記念館 ［旧豊郷尋常高等小学校本館］

建物は 1887（明治 20）年築の旧豊郷尋常高等小学校本館。地元の四十九院（しじゅうくいん）で生まれ、商人として成功した薩摩治兵衛の多額の寄附が原資の一部となった。1936（昭和 12）年の新校舎完成後は教員住宅に。国の登録有形文化財。●豊郷町四十九院 815 ／近江鉄道豊郷駅から愛のりタクシーで 4 分、徒歩 3 分／ 10 ～ 16 時／月～金曜・日曜休／入館無料



SPOT 8 「東洋一の小学校」が建設当初の姿のまま 豊郷小学校旧校舎群

1937（昭和 12）年竣工。設計は、近江八幡に居を構えたウィリアム・メレル・ヴォーリズ。建設のため多額の寄付を寄せた丸紅専務の古川鉄治郎の像が玄関脇に立つ。屋上には学習用も兼ねた風向計が今も現役。ガイド付きのツアーは 1 周間前までに要予約。●豊郷町石畑 518 ／近江鉄道豊郷駅から徒歩 10 分／ 9 ～ 17 時／月曜休（祝日の場合は翌日）／見学無料



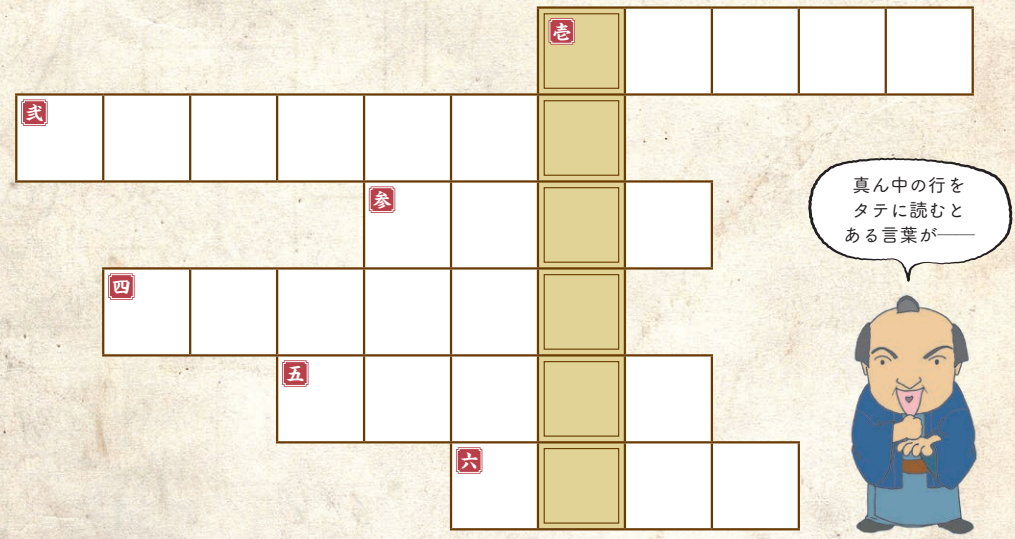


彦根駅、河瀬駅、稲枝駅（以上、彦根市）、近江鉄道の愛知川駅（愛荘町）からの路線もある。

番外編

答えはこの冊子を読めばわかり☑

近江商人クロスワード



ヨコのカギ

問 壱 日野祭の行列はお座敷から「○○○まど」越しに鑑賞

問 弐 不景気を乗り切るためには「お○○けぶしん」で相互扶助

問 参 山形で見つかったＢ級グルメ 近江ルーツの麺類「○ o ぼこ」

問 四 日本を代表する商社「いと○○ o ○」も近江商人

問 五 水路が巡る近江商人ゆかりの町 女性教育の先進地「ごか○ o ○」

問 六 創業 450 年！　近江八幡ルーツの老舗の寝具メーカー「に○○わ」

お問い合わせ先

- 近江八幡駅北口観光案内所 0748-33-6061
- 東近江市観光協会 0748-29-3920
- 日野観光協会 0748-52-6577
- 豊郷町観光協会 0749-35-3737

発行：近江商人ゆかりの町連絡会　https://omi-syonin.com/
発行日：2025(令和7)年1月
原稿執筆：姫乃たま
編集制作：風来堂（村上詩織／今田 洋／今田 壮）
デザイン：cycledesign
組版：コンポーズ（濱井信作）
イラスト：ブタネコ本舗
地図制作：国井 潤